

1 アスリート・観客にやさしい道づくりに向けた取組みの方向性 (骨子案)

1. アスリート・観客にやさしい道づくりに向けた留意点

○路面温度上昇抑制機能を有する舗装

- ・滑りやすさ、照り返しなどによる眩しさなど、これまでの道路整備とは違った観点を考慮。
- ・W B G T等身体に与える影響に関する指標についても確認。
- ・効果の持続性等を踏まえた計画的な施工。
- ・散水の量とタイミングについて、資機材や水の確保に関する制約を踏まえた検討が必要。

○緑陰の形成

- ・道路緑化の計画的な推進及び既存の樹木の樹冠再生を通じた緑陰形成は、路面温度の低減とともに快適な道路空間の形成にも寄与。

○他の主体との連携

- ・道路空間の快適性に影響を与える壁面緑化等道路区域外の取組み、休憩施設やミストの設置、W B G Tや気象情報の提供などについて、関係機関と連携した取組み。

○その他

- ・取組みにあたっては、観客への快適な道路空間の提供も考慮。
- ・歩道を安全・安心な通行空間にするため、自転車の走行空間を確保。

2. 路面温度上昇抑制機能を有する舗装の検証結果

- ・保水性舗装、遮熱性舗装ともに一定の効果があることを確認。
- ・散水は路面温度の低減に効果的。
- ・晴天時、保水性舗装は散水により遮熱性舗装より高い路面温度上昇抑制効果を発現するが、散水が無い場合には効果が限定的になる。
- ・保水性舗装では、一定量まで散水量が増えるほど温度上昇抑制効果が継続する傾向が見られる。
- ・日陰の形成による路面温度や道路空間の温度低減への効果を確認。

3. アスリート・観客にやさしい道の整備に向けた課題と方向性

○路面温度上昇抑制機能を有する舗装

- ・舗装施工後の効果の持続性や既存の舗装更新のタイミング、現地の状況に留意し、計画的に整備。
- ・その際、散水しなくても効果が発現する遮熱性舗装を積極的に採用。
- ・継続的に散水が実施できる地区においては、保水性舗装を選択。

○散水方法

- ・散水は、資機材や水の確保に関する制約等を踏まえながら、量とタイミングについて検討の上、計画。

○緑陰の形成

- ・温度低減に効果的である緑陰形成に資する道路緑化を実施。
- ・既存の街路樹については、十分な樹冠が確保できるよう、剪定の方法や頻度について工夫。
- ・他機関との連携を図り、他の対策との組み合わせも検討。

○他機関との連携

- ・壁面緑化や屋上緑化、公開空地の緑化等の温度低減に資する取組みと連携した整備を図るなど、関係機関との連携を図る。
- ・他機関が行う取組みに対して、連携し対応。

○その他

- ・どのように取組みを組み合わせることが最も効果的かについて検討。
- ・大会開催期間中はもとより、将来にわたって快適な道路空間が提供できるよう、取組みを推進。